

内視鏡で早期発見を

小樽でリレー講座 「一からわかる大腸がん」詳報

がんの専門医が最新の知識を解説する「道新がんリレー講座」が21日、小樽市稲穂の北海道新聞小樽支社で開かれた。小樽掖済会病院副院長で消化器病センター長の勝木伸一医師が「一からわかる大腸がん」と題し、検査の重要性や最前線の診断、治療法について講演。約60人が耳を傾けた。質疑応答と併せ内容を詳報する。

(峯村秀樹、中野訓)

便潜血検査のみは不十分

がんを防ごう

食べ物は小腸で栄養分

が、大腸で水分が吸収され便ができます。そのため最終的に食べ物を処分する大腸には、発がん物質や毒素が高い濃度で存在します。国内でがんと診断される人を部位別に見ると、最も多いのは大腸がん。2位は胃がん、3位は肺がんです。がんで亡くなる人のうち大腸がんが死因の人数は2位、女性だと1位です。大腸がんで亡くならないためには、やはり早期発見が重要です。(治療から5年後に生存している割合を示す)5年生存率は、がんが浅く腸内の粘膜にとどまる「ステージ0」では94%、少し深いが腸を動かす筋肉の途中までの「ステージ1」では91%なのに対し、他の臓器に転移が始まる「ステージ4」だと18%にまで悪化します。ステージ0や1は内視鏡で治療できる可能性があるので、そこで何とかしたいところです。



「がんが進行し細胞がリンパ管に入ると、名医でも助けられないことがある」と早期発見の大切さを訴える勝木伸一医師

ただ早期の大腸がんは症状が現れません。がんが大きくなるに従い血便や下血、便が細くなる、体重減があり、ひどくなると腸が詰まって腸閉塞になり、とにかく吐きます。吐いた物は便のような臭いがします。



CT診断も普及
検査は通常、便に含まれる血を調べる「便潜血反応」が行われますが、問題点があります。(がんが進行)といった状態の人でも10人に1、2人は陰性となり見落とされまます。早期がんの人なら半数が陰性にもなる。便が大腸の中で腫瘍に当たらなければ血が付かないからです。陰性でもがんがないと決まったわけではない。ですから内視鏡検査を受けてほしいのです。内視鏡検査を「つらい」「恥ずかしい」と嫌がる人もいますので、同様の医師を探してみてください。小樽にも

女性の医師はいまいます。内視鏡以外ではコンピュータ断層撮影装置(CT)で作成した3D(三次元)画像での診断が普及しつつあります。進行がんはかなりの確率で見つかります。カプセル内視鏡検査も最近出てきました。カメラ付きのカプセルを飲んでもらい、大腸を通過する際に連続撮影した写真で診断し、大きな腫瘍であれば見つかります。ただ対象は内視鏡検査で痛くてつらい経験をした腹部に手術歴や臓器などの癒着がある人です。

受診の「くせ」を
大腸がんの原因は食事も一因です。10カ国の研究者が計800の研究を調査した結果、毎日50gの加工肉を食べると大腸がんの発がんリスクが18%高まると昨年、発表されました。50gというのはベーコン4枚、またはホットドッグ1個に相当します。

近年の治療方法についてお話ししましょう。早期がんは内視鏡治療で腫瘍を根こそぎ取るのが基本です。ポリープ状態なら内視鏡の先からワイヤを出してくんだり、電流で焼き切るポリペクトミーです。ポリープの茎が無い場合は液体を腫瘍に打ち込みがんを盛り上げ、同じように焼き切る内視鏡的粘膜切除術(EMR)があります。腫瘍が大きければ内視鏡から電気メスを出し、はくように切り取る内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)も多いです。このほか腹腔鏡手術といっておなかに穴を開けカメラを入れて腸を切り取る手術も、内視鏡治療と同様、開腹手術より術後の合併症のリスクが小さく、社会復帰が早い利点があります。小樽は大腸がんなどの検査受診率が低いですが、便潜血検査で疑いが指摘されたのに精密検査にこない人もいます。とにかく受診のくせを付けてほしい。医者と

かかると思っています。ただ、ポリープが多くある人は腸内環境が良くないといつことだから、こまめな受診をすすめています。

Q 胃のポリープは取らなくて良いですか。
A 治療しなくてもよいポリープもたくさんあります。がんになるもの、健康な人にもできるものなど種類はさまざま。医師にきちんと聞きましょう。大きくなり、ちぎれそうになると取り除く場合があります。

自己負担3割なら6千円

■ 質疑応答から
Q 大腸の内視鏡検査の費用と準備の時間は。
A 健康保険の種類によって異なりますが、自己負担が3割だと約6千円。大便を作らない検査食に数百円かかります。腸内をきれいにする必要があり、準備の

大腸がんの検査方法などの説明に聞き入る参加者

時間は個人差があります。午前中に病院に来て昼に始められる人もいます。

Q どれくらいの間隔で検診するべきでしょうか。
A 何年おきがベストかわかっていませんが、大腸に腫瘍がない人には「2年は大丈夫」と言います。がんが1センチの大きさに成長し、内視鏡で発見できるようにするには10年ほど